

# 大間原発建設阻止の闘い

大場 一雄

青森県大間町。「大間マグロ」や「本州最北端の地・大間崎」でご存じのことと思います。大間町から函館市までは津軽海峡を挟んで約18kmで、町民はフェリーで函館に通院や買い物に訪れます。また、大間町観光では、夏場に行われる「日曜日はマグロだDAY!」でのマグロ解体ショーや函館夜景を横から見る「横やげ〜」が好評です。

## 一方的な建設工事再開

さて、この大間町に原発立地の話が出たのが1976年。紆余曲折を経て2008年4月に原子炉設置許可が出され、同年5月に事業者である電源開発(株)は大間原発の建設工事を開始したものの、2011年3月11日の東京電力福島第一原発事故により進捗率37・6%で工事は「休止」してしまいました。しかし、電源開発(株)は、2012年10月1日一方的通告によって工事を再開させました。同日、事後報告に訪れた電源開発(株)常務に対して、函館市長は「私どもが無視された形で納得できない」と憤りました。その後10月15日には、函館市長や近隣の首長、各市議会議



30年ぶりの大間町反原発デモ

長、函館商工会議所会頭などが国や電源開発(株)を訪れ、工事再開の中止を要請し、電源開発(株)には質問書を提出しました。その回答が10月31日にありましたが、電源開発(株)側は「公開」で会うことを拒否し回答を郵送するという態度でした。函館市長は、「まともに答えていない」「事実上の無視」と非難しています。函館市長は、「脱原発」や「反原発」ではなく「大間原発無期限凍結」を主張しています。その理由は「原発の新設は、福島原発の重大事故を起こしたわれわれの世代が判断することではなく、他の安全なエネルギー開発の状況を見ながら、将来世代の判断に委ねるべき」ということです。私たちと考え方は違い

ますが、まず大間原発の建設中止に協力して六ヶ所再処理工場や核燃サイクルの阻止に頑張りたいと思っています。

## 風向きは変わった

大間原発に対する反対運動は、明らかにステージが変わりました。何幕目の第何場なのかはわかりませんが、大間原発に幕を降ろす時期は近づいています。函館市が11月1日に訴訟担当窓口を新設し、同月5日には訴訟準備金の予算化を市議会各会派に説明するなど具体的に訴訟の準備に入ったこと、今年6月に約30年ぶりに開催された大間町現地での反原発デモが11月11日で3回目を迎えたこと、大間町や隣接村の住民の不安が声に出されてきていること、函館商工会議所が今年7月に行なった原発についてのアンケートで会員の34%にあたる255社から回答があり、「安全対策を実施した上で当面は再稼働し、段階的に減らす」が71%、「一切再稼働するべきではない」が23%であったこと。そして、大間原発訴訟の会では2010年7月に建設工事の差し止めを求めて函館地裁に国と電源開発(株)を提訴し現在係争中ですが、入会の申し込みが連日のように続くこと等々。どれも小さくはない出来事ですが、もっと確実な「転」が必要であり、その「転」を導くことで納得のいく「結」を得たいと考えています。(おおば・かずお／大間原発訴訟の会事務局長、写真提供も筆者)